



米子市埋蔵文化財センターたより



第12号

2014年3月

こしきさん 越敷山古墳群の調査

—人骨の取り上げ作業—



上 73号墳の人骨

左 70号墳の人骨取り上げを行う
井上貴央先生

平成25年度に実施した越敷山古墳群の発掘調査は、金廻地区と坂長地区の古墳と、越城ノ原遺跡の調査を行いました。これまでの成果として、越敷山一帯に古墳時代中期頃の古墳がたくさん分布していることや、弥生時代後期の集落が尾根上に作られていることが判明しました。また、奈良時代頃の道路も尾根の上に作られていることが明らかとなり、日野方面へ向かう古代の道が存在したことが明らかとなりました。

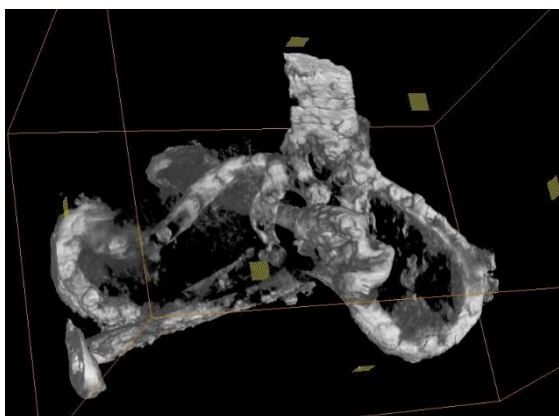
現在、調査は大詰めを迎えており、2月下旬には、前号でお知らせした70号墳の人骨と、73号墳から新たに出土した人骨の取り上げ作業を行いました。作業には元鳥取大医学部の井上貴央先生に来ていただき、人骨の解剖学的な所見をご教示いただきました。その結果、70号墳の人骨は出産経験のある高齢の女性であり、73号墳の人骨は、頭部の額部分と左側頭部のみがつぶれたような状態で残っていましたが、男性の可能性が高いということでした。

平成26年度の越敷山古墳群の調査は、金廻地区に所在する3基の古墳を調査する予定です。中でも、80号墳は伯耆町内でも珍しい横穴式石室を持つ古墳で、金廻古墳群中でも、最も新しい段階の古墳と推測されています。どのような成果が得られるのか、次年度の調査にご期待下さい。(佐伯)

発掘調査情報

f 字形鏡板付轡^{くつわ}の調査 — 観音寺狼谷山遺跡 —

3月の月上旬、福岡県にある九州歴史資料館にて、東宗像 21 号墳から出土した f 字形鏡板付轡をはじめとする馬具等の X 線 CT スキャナー撮影を行ってきました。今までの調査で行っていた X 線撮影は、所謂二次元で平面的にししか見ることができなかつたのですが、X 線 CT スキャナー撮影をすることによって、三次元で立体的に見ることができます（写真左）。また必要に応じて断面を観察することもできるすぐれものです。今後は持ち帰ったデータを見ながら細部に渡って検討していく作業を行っていきます。（平木）



X線CTスキャナー装置

整理室たより

整理室では平成25年度の報告書作成作業の追いこみ時期となり、遺物実測や遺構版下の作成や、トレースした図面などの編集が進められています。

報告書作成作業は、遺物は洗浄・注記・復元作業の基礎整理を終えた後、遺物実測、トレースをして報告書用に遺構のトレース図と説明文を編集し版下図版を作成します。また観察表や遺物写真・遺構の写真図版などを含め編集をして報告書として刊行します。発掘調査の記録として将来に残していくと同時に行政や研究機関に送付して活用していただきます。



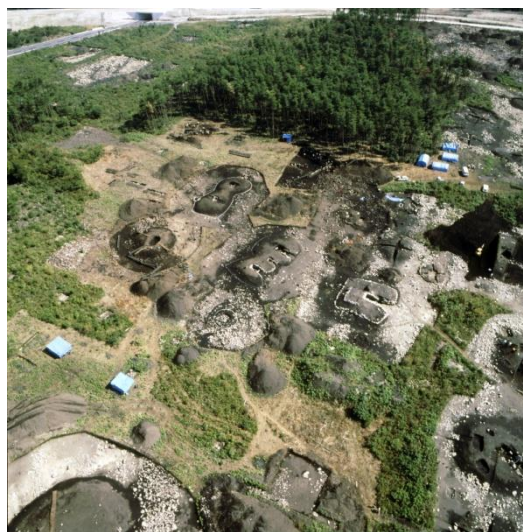
報告書編集作業

遺跡シリーズ 1 2 石州府古墳群 (せきしよこふんぐん)

石州府古墳群は米子市石州府地区内に所在する古墳群で、大山山麓西端部の標高 120 ～70m の丘陵と扇状地に分布する前期から後期までの 1 2 8 基の古墳群です。特に 1 9 9 0 年に工場用地造成に伴って調査された扇状地の古墳群は寺処支群と呼ばれ、大半は盗掘、開墾によって破壊されてしまいましたが、調査によって残存遺構と遺物が多く確認されました。

発掘調査で前方後円墳 2 基、円墳 5 0 基、方墳 8 基、石棺 1 1 基、石蓋土壙墓 4 基、土壙墓 3 0 基が発見され、6 世紀末～7 世紀末にかけて造営された古墳時代後期の群集墳であることが判明しました。埋葬施設には横穴式石室、箱式石棺（箱形石棺）が多用され、一つの古墳に複数の埋葬施設を持つのが特色です。

石州府古墳群は ^{あかた} 県～春日域の後期後半に勢力を台頭させてきた集団が、奥津城として造墓した古墳群と考えられています。(小原)



石州府古墳群遠景

コラムー古墳時代遺跡を掘る ⑧古墳時代中期 ー青木遺跡C地区ー

1 9 7 1 年から 1 9 7 7 年にかけて行われた青木団地造成工事に伴って発掘調査された青木遺跡は、弥生時代から奈良時代の集落遺跡と古墳群の遺跡です。当時、西日本最大級の集落跡として注目を集め一部が国の史跡に指定を受け保存されています。この遺跡の C 地区と呼ばれる標高 4 0 m の丘陵上で発見された古墳時代中期



C地区の竪穴住居と掘立柱建物跡

(5 世紀) の村跡で、竪穴住居跡 2 1 棟、掘立柱建物跡 2 4 棟、段状遺構 4 基、溝 1 基、土坑 1 基の遺構が発見されました。5 世紀代の集落変遷が良く解る遺跡で、一時期に竪穴住居跡 5 ～8 棟と掘立柱建物跡 5 ～6 棟で構成された村が、C 地区の丘で家を建て替えながら約百年間営まれ続けた事を物語ってくれます。(小原)

センター・資料館日誌

- 1月14日 山梨県博の学芸課長中山氏ほか2名が種子圧痕調査で来館された。市教委から米子城跡の表採遺物が搬入された。
- 1月22日 京都大院生が樹皮遺物調査で来館された。
- 1月24日 日本原子力機構へ鉄器資料を貸出した。
- 1月28日 鳥取県史編纂室湯村氏が県史資料調査で来館された。
- 2月12日 鳥取県史編纂室湯村氏が資料借用で来館された。
- 2月17日 智頭町教委20名が埋文センター視察に来館された。島根県出雲古代博の柳浦氏が資料調査で来館された。
- 2月19日 埋文センター正面玄関展示ケースの展示を入れ替えた。



越敷山古墳群の展示

- 2月25日 鳥取県ミュージアムネット研修会へ高橋学芸員が参加した。鳥取県史編纂室湯村氏が資料調査で来館された。
- 3月10日 東宗像21号墳のf字形鏡板付轡X線CT撮影調査で九州歴史資料館へ出張した(平木)

境矢石遺跡の玉製品調査で奈良文化財研究所へ出張した。(高橋)

- 3月14日 鳥取県埋蔵文化財センター研修へ参加した。(濱野・平木)
- 3月16日 「米子城跡ガイドウォーク」を開催した。



米子城跡ガイドウォーク

- 3月19日 歴史館運営委員会が開催された。
- 3月27日 境内海道西遺跡の鉄器が元興寺で保存処理され帰って来た。

編集後記

季節は春となり、福市遺跡のつぼみが膨らみ、もう少しで桜が咲きはじめます。職員は平成25年度が終わり、息つく暇もなく新年度の事業に向けて準備を始めています。平成26年度には、どんな新発見があるか夢が膨らみます。

発行日 平成26年3月27日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 (一財) 米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp

